

2014年度 工学部機械工学科 教育課程表(2006年度から2013年度入学者に適用)

(学年は標準年次を示す)

		1年次						2年次						3年次						4年次						卒業要件 単位数
		1セメスター			2セメスター			3セメスター			4セメスター			5セメスター			6セメスター			7セメスター			8セメスター			
		授業科目	単位	担当者	授業科目	単位	担当者	授業科目	単位	担当者	授業科目	単位	担当者	授業科目	単位	担当者	授業科目	単位	担当者	授業科目	単位	担当者	授業科目	単位	担当者	
専 攻 科 目	専門基礎必修科目	微分積分学 物理学概説 情報処理演習	○4 ○4 ○1	{(休講) (休講) 渡邊(恭)	微分積分学 幾何学 物理学 物理学概説 微分積分学 情報処理演習	○4 ○4 ○4 ○4 ○4 ○1	{(休講) (休講) (休講) 立山 何森 小林	微分積分学 物理学 物理学実験 物理学 微分積分学 微分積分学 情報処理演習 幾何学	○4 ○4 ○1 ○4 ○4 ○4 ○1 ○4	{矢島 高棹 立山 *1 有働 鈴木(友) 山崎(教) 鈴木(友) 江口 永野	微分積分学 物理学 微分積分学 幾何学 物理学実験	○4 ○4 ○4 ○4 ○1	{永野 鈴木(友) 有働 永野 小林 有働 小谷	物理学実験	○1	(休講)										30
	専門基礎選択科目	微分積分学入門	4	(休講)	微分積分学入門	4	山崎(教)	化学実験	1	岩倉	物理学 化学実験 幾何学	2 1 4	松田 岩倉 高棹	物理学 基礎化学 物理学 幾何学	2 2 2 4	矢崎 亀山 (休講) 高棹	基礎化学 物理学	2 2	亀山 (休講)							
	専門必修科目	機械工学実習 基礎機械要素	○1 ○2	{伊東 鈴木(健) 笹田	機械解剖 コンピュータテラシー	○1 ○1	{中尾 伊東 高野 有馬 梅本	実用英語 工学問題の解析法 材料力学及び演習	○1 ○2 ○2	{丹羽 小森谷 江上 中西 竹村 伊藤	実用英語 機械製図	○1 ○2	{丹羽 小森谷 鈴木(健) 熊倉	実用英語 CAD/CAM及び演習 技術者倫理	○1 ○2 ○2	{鹿田 川島 鈴木(健) 熊倉 大西	実用英語 機械工学実験	○1 ○1	{鹿田 川島 *2	卒業研究 (通年科目) 輪講 (通年科目)			○8 ○2 *3 *3	30		
	選択科目A群							工業力学及び演習 機械加工学 機械材料	2 2 2	{竹村 高野 青木 寺島 田島	工業力学及び演習 材料力学及び演習 流体力学及び演習 工業熱力学及び演習 機械加工学	2 2 2 2 2	{寺島 原村 伊藤 竹村 中西 原村 伊東 笹田 青木	3年次, 4年次対象開講科目										26		
	選択科目B群							Mデザイン	2	{原村 伊藤 竹村 有馬 船見	Mデザイン	2	{林(憲) 梅本	3年次, 4年次対象開講科目										8 単位以上	関連科目を含め14単位以上	
関連科目					工業概論	2	*4	微分方程式 応用数学 確率・統計 職業指導	2 2 2 2	{大町 小野 酒井 儀我 加藤	微分方程式 代数学概論 職業指導	2 2 2	{大町 小野 本間 加藤	信頼性工学 代数学 関数論 統計物理学	2 2 2 2	{浅野 東川 勝野 勝野 儀我 松田	品質システム 代数学 関数論 統計物理学 知的財産権 応用数学 確率・統計	2 2 2 2 2 2 2	{秋葉 東川 勝野 勝野 儀我 矢崎 松山 堀口 儀我	量子物理学 システム工学	2 2	野村 秋吉	2 2	野村 秋吉		

*1: 有働, 相澤, 小原, 渡邊, 半揚

*2: 伊藤, 伊東, 林(憲), 江上, 笹田, 高野, 竹村, 寺島, 中尾, 中西, 原村, 山崎(徹), 鈴木(健), 有馬, 梅本, 林(晃), 船見

*3: 伊藤, 伊東, 林(憲), 江上, 笹田, 高野, 竹村, 寺島, 中尾, 中西, 原村, 山崎(徹)

*4: 中西, 伊藤, 原村, 三谷, 窪谷, 重村, 岩本, 島崎, 鎌田

〔備考〕

- 1 印は教職関連科目につき卒業要件単位には算入しない。
- 2 ○印は必修科目，□印は再履修授業科目を示す。

〔履修要件〕

- 1 上位年次の授業科目を履修することはできない。ただし、関連科目においては、2 年次からこの制限を設けない。また、休学あるいは原級した年次には、上位の年次に配当された再履修科目を履修することができる。
- 2 工学部他学科で開講されている授業科目を履修する場合は、受講者数に制限があるので担任者の許可が必要である。
- 3 1 年間に履修登録できる単位数は、52 単位を上限とし、かつ各セメスターに履修できる上限は 26 単位とする。（通年科目については、その科目の単位数を二分割し、各セメスターの単位数として換算する。）ただし、第二外国語科目、選択英語、卒業要件単位に算入されない資格教育課程に関する科目については、この制限を適用しない。
- 4 「微分積分学入門」の履修は「微分積分学」及び「微分積分学」の未修得者に限る。

〔進級要件〕

（1 年次から 2 年次）

- 1 1 年次終了までに、26 単位以上を修得しなければならない。なお、卒業要件単位に算入されない単位数は含めない。
- 2 「FYS」を修得し、かつ「機械工学実習」、「機械解剖」のうち 1 科目以上修得しなければならない。

（2 年次から 3 年次）

- 1 2 年次終了までに、66 単位以上を修得しなければならない。なお、卒業要件単位に算入されない単位数は含めない。
- 2 「機械工学実習」、「機械解剖」、「物理学実験Ⅰ」、「機械製図」のうち 3 科目以上修得しなければならない。

（3 年次から 4 年次）

- 1 3 年次終了までに、106 単位以上を修得しなければならない。なお、卒業要件単位に算入されない単位数は含めない。
- 2 「機械工学実習」、「機械解剖」、「物理学実験Ⅰ」、「機械製図」、「CAD/CAM 及び演習Ⅰ」、「機械工学実験」のうち 5 科目以上修得しなければならない。

〔学外単位認定制度〕

学則第 13 条及び第 13 条の 2 に基づく次の単位は、本学における授業科目の履修とみなし、卒業要件単位に算入することができる。

なお、横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は、各セメスターの履修制限単位数に含める。ただし、2012 年度以前の入学者については、各セメスターの履修制限単位数には含めない。

- 1 本学が主催または推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
- 2 文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で、本学における所定の手続きにより認定された単位。
- 3 横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で、本学の授業科目として認定された単位。

〔卒業要件〕

- 1 4 年以上在学し、学則所定の次表の「卒業要件単位数」を修得しなければならない。

授業科目 入学年度	共 通 科 目							専 攻 科 目						合 計	
	F Y S	外国語科目	教養系科目					共通科目合計	専門基礎必修科目	専門必修科目	選択科目A群	選択科目B群	関連科目		専攻科目合計
			キャリア形成科目	人文の分野	社会の分野	自然の分野	健康科学の分野								
2006～2013 年度入学	2	4	12					28	30	30	26	8	6	100	128

- 2 外国語科目については、必修科目としての英語の所定の科目 4 単位を修得すること。外国人留学生及び外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）は申請により、英語に換えて日本語とすることができる。

教養系科目については、人文の分野と社会の分野の 12 単位以上を含めて 22 単位以上を修得しなければならない。

- 3 選択科目 A 群で卒業要件単位数を超えて修得した単位は、選択科目 B 群の単位に換算できる。
- 4 つぎの単位は、6 単位を上限として関連科目の単位に換算できる。
 - (1) 工学部他学科で開講されている専攻科目の修得単位。
 - (2) 同一言語同一名称の科目を ・ のペアで修得した（必修以外）外国語科目。
 - (3) 専門基礎選択科目の修得単位。
- 5 資格教育課程に関する科目及び教職課程の「教職に関する科目」の単位数は、卒業要件単位に含めない。
- 6 総合工学プログラムから機械工学科に所属された学生は、総合工学プログラムの卒業要件に従って履修した専攻科目の修得単位を機械工学科の専攻科目に置き換えることができる。

教育課程における標準年次の区切線について

標準年次が実線（——）で区切られている場合、上位年次の授業科目は履修できません。

標準年次が破線（……）で区切られている場合、上位年次の授業科目は履修できますが、〔履修要件〕等にしたがって履修できない授業科目もありえますので注意してください。